

コード	名 称		区分	コード	名 称	
事業名	2266	伊賀市の文化財冊子作成事業	会計			
			款			
			項			
基本	36	歴史や文化を守り、未来へと引き継ぐ	目			
施策			細目			
行革大綱の重点事項番号			細々目			
担当部課	コード	450400	担当者氏名	福田典明	連絡先	22 - 9681
	名称	生涯学習課				(内線) 3840

事務事業の概要(Plan)

【全体事業計画】

対象(誰を、何を)	伊賀市の文化財冊子	※対象件数	428以上
成果(どうする)	伊賀市内の指定文化財について整理を行い、その結果を踏まえた冊子を発刊することにより、市民が文化財の価値について学習し、地域の誇りとして文化財保護への理解を深めることができる。		
根拠法令・要綱等			
開始年度	平成 24 年度	関連事業	
終了年度	平成 24 年度		
事業概要	指定文化財の調査票を整理をし、伊賀市としてまとめた文化財冊子を刊行する。		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
2 配置(予定)人員	人
3 年間運営費(見込)	千円
4 年間収入(見込)	千円
5 市内の類似施設	

【検証指標】

活動指標	指標名	単位	現状値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
	発行部数	部				1,500

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	現状値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
	関係機関への配布率	公民館、教育機関等に配布することにより、多くの市民の目に触れる	%				100

【投入コスト】

投入コスト	H22 所要額		H23 所要額		H24 所要額		H25 所要額	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計 (A)					1,000			
Aの財源内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
一般財源	0	0	0	0	1,000	0	0	
事業投入人件費 (B)	0.1人	720	0.1人	720	0.3人	2,160	0	
フルコスト(A)+(B)		720		720		3,160	0	

【事務事業企画の背景、状況変化見通し、市民意見等】
 この事務事業を新たに企画した背景は何か？
 合併前の旧市町村においては、それぞれ文化財の冊子が刊行されているが、伊賀市のものはまだ作成されていない。
 この事務事業を取り巻く状況(対象や根拠法令等)は、今後どのように変化していくか？(見通し)
 この事務事業に対して関係者からどのような意見や要望が寄せられているか？
 伊賀市の指定文化財を解説した冊子の刊行を望む要望が強い。
 本事務事業は、どのような状態になれば完了とみなす(休止・廃止となる)か？また、その目安はおおよそ何年後か？
 冊子『伊賀市の文化財』の刊行 3年後

【事前評価】

該当項目に○をつけてください。		【特記事項】	
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業		
	個人のみだけでは対応し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業		
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業		
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	○	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		
国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		伊賀市の文化財をコンパクトにまとめた冊子を作成することにより、広く市民に文化財の価値を知っていただく。	
市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事務事業			
民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業			
受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業			
有効性	事務事業を実施しない場合の市民への影響は大きい。	【根拠】	
	基本施策の目的を実現するために事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。	○	
	社会経済情勢・市民ニーズなどから、緊急性は高い。	【直ちに着手・実施しなければならない(先延ばしできない)理由】	
事務事業の対象・成果の設定は妥当である。	【根拠】		
効率性	事業費や整備後の管理経費の算定にあたって、コスト削減策を考えている。	○	【具体的内容】 原稿・写真等をデータで印刷業者に渡すため、廉価での発刊が可能である。
	受益と負担の公平性が考慮されている。	○	【根拠】 個人として冊子を希望される方には有償で頒布を行う。
	本事務事業と類似の目的・手段をもつ事業がある。	○	【事業名称 今後どのように連携して成果向上を図るか】 市史発刊事業 市史編さん係の有する資料も活用していく
	本事務事業の企画に際して、代替案を検討した。		【比較検討結果】
本事務事業の実施にあたって、廃止又は統合する事業がある。		【事業名及び削減される一般財源額】	
コストに見合った効果が見込める。		【根拠】	
将来的に民間等への移管が可能である。		【いつごろ】	

担当課長氏名	事業実施に対する担当課長の意見
楨田ちえみ	伊賀市指定文化財は274件で、豊かな文化遺産が数多く残っています。この貴重な文化財を、地域の財産として後世に伝えるため保護・保存に努めなければなりません。このことについて市民に周知理解を深めてもらう一助として活用できると考えます。